

三浦節夫先生追悼シンポジウム

「井上円了研究の過去／現在／未来」

二〇二二年九月一八日に逝去されました三浦節夫先生を追悼し、二〇二三年七月八日、東洋大学白山キャンパスにおいて「井上円了研究の過去／現在／未来」と題した追悼シンポジウムを開催しました。

三浦先生はおよそ四〇年にわたり、東洋大学における井上円了研究を牽引され、重要な基礎研究を数多く行っ
てこられました。その業績の多くは、学位論文をもとにした主著『井上円了―日本近代の先駆者の生涯と思想』
（教育評論社、二〇一七年）などにまとめられています。また闘病生活を送っていた晩年は、体調の問題から定
年よりも一年早く退職され、最後の著作となった『日本人に哲学をひろめた男 井上円了―追悼文に見る哲学者
の横顔』（教育評論社、二〇二二年）の執筆のために、残された時間の大部分を費やされました。

本シンポジウムでは、文字通り生涯を井上円了研究に捧げられました三浦先生の多大なる業績を振り返るとと
もに、先生のご研究を受け継ぐべく、先生から教えを受けた三名の研究者たちが研究報告を行いました。以下に、
研究報告の内容を掲載いたします。

また、コメントーターとして、独自の観点から井上円了研究に携わってこられた岡田正彦先生（天理大学教授）
にご登壇いただき、三浦先生との思い出を共有しつつ、各発表者へのコメントもいただきました。

そして登壇者および参加者を交えて行われた最後の討論では、東洋大学百年史事業の開始とともに始まった三

浦先生の研究生生活の全体を振り返りながら、三浦先生が恩師高木宏夫先生より学ばれた宗教社会学の方法論的背景があらためて確認されました。

三浦先生を偲ぶこのようなシンポジウムが実現でき、オンラインを含む多くの皆様にご参加いただきましたことは、ひとえに三浦先生のご人徳であると思います。ここに関係者の皆様への感謝を示すとともに、三浦先生への哀悼の意を表します。

井上円了哲学センター研究助手 長谷川琢哉